

項目		電子化	紙
情報更新	メリット	<ul style="list-style-type: none"> 情報の更新がスマートフォン等の電子機器で容易にできるようになる。 必要な箇所ごとの情報更新が容易にできる 	<ul style="list-style-type: none"> 電子入力に慣れていない高齢者等も記入できる 更新にはPC、スマートフォンなどの電子機器が必要ない シートの配布によりすべての高齢者が記入（更新）できる
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 電子入力に慣れていない高齢者の更新作業が困難になる 新規作成・更新にはPC、スマートフォンなどの電子機器が必要となる 新規作成・更新にあたり専用のアプリやシステムを導入する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 更新作業が手作業となり面倒となる 更新に際し、新たなシートが必要となり、場合によってはすべてを書き直す必要がある。
情報量	メリット	<ul style="list-style-type: none"> より多くの医療・介護情報を蓄積することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 救急隊が必要とする情報はシートに記載する情報で足り、瞬時に必要な情報を把握することができる
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 救急隊が最低限必要とする情報以上の情報があるため、確認に時間がかかるおそれがある 	<ul style="list-style-type: none"> 電子ベースに比べ情報量が少なくなる。
救急隊の使用	メリット	<ul style="list-style-type: none"> キットが見つからない場合も必要な情報を把握することができる。 医療機関へ情報提供する場合、多くの情報を提供することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 必要とする情報は現在（検討を行った）のシートにある項目をもって足りることから、迅速な救急搬送を行うことができる 町田市内の救急要請に際しては、町田消防署のみならず近隣市の消防隊が駆けつける場合もあるが、運用がすでに浸透しており、適切な運用がなされる。 情報把握にあたり読取端末等を必要としない。
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 町田市内の救急要請に際しては、町田消防署のみならず近隣市の消防隊が駆けつける場合もあり、電子運用の周知・運用が困難となる可能性がある。 情報を読み取る際はタブレットやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。そのため、近隣市も含めた救急隊へ読取端末の配備が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> キットを発見できない場合に情報を確認することができない

配布対象者 にとって	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・キット・シートの配布が不要となり、電子環境が整っていればいつでも自身で新規作成・更新が可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子入力等に慣れていない高齢者も容易に記入を行うことができる ・高齢者支援センターから配布されるだけでなく、HPやコンビニからシートのダウンロードが可能となり、いつでもシートを入手することができる ・キット（容器（筒））の配布数を把握することができる
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・電子機器操作の苦手な高齢者が多く、導入のハードルが高い ・タブレットやスマートフォンなどの電子機器がない場合、新規作成・更新を支援することができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・容器（筒）を自作してもらう場合、利用者に手間が生じる ・在庫数管理のための手間が生じる
支援者 （新規作成や更新を支援する方にとって（包括職員、ケアマネ等））	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやスマートフォンなどの電子機器があれば更新の際の手助けが容易となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の更新に際し、タブレットやスマートフォンなどの電子機器を必要とせず、作成や情報更新等の手助けが容易にできる
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・更新作業を支援する者（ケアマネ等）が、事業所としてスマートフォンを所有していない事業所が多く、更新作業を支援できない。 ・スマホの操作支援等も行っているが、高齢者にとって電子入力はハードルが高く、困難となる可能性があると考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子に比べ、作成・更新支援の際に、新たに書き直しの等の手間が生じる
費用	メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・キット（筒）を作成しない場合は紙ベースよりも安価に運用が可能となる ・1事業者あたりの導入費用が安価である 	<ul style="list-style-type: none"> ・容器（筒）を自作してもらうことにより費用を抑えることができる
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたりシステム導入費用（初期費用）負担が発生する。 ・キット運用中はシステム管理のためのランニングコストが発生する。 ・長く運用した場合、紙ベースより高額となる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子ベースに比べ、容器（筒）作成費用や紙の印刷費が発生し高額となる。 ・容器（筒）を自作してもらう場合、利用者に費用・手間が生じる
運用に あたって	メリット	<p>厚生労働省による※2「救急時医療情報閲覧」が可能になるまでの間、救急搬送時に医療機関が必要とする多くの情報を共有することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救急隊が医療機関に迅速に搬送することに着目した場合、シートに記載されている情報で足り、瞬時に必要な情報を把握しスムーズな救急搬送を行うことができる ・厚生労働省の運用するシステムとの棲み分けができ、目的に応じた運用が可能となる
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、厚生労働省により医療機関向けに、災害時に手術・診療・薬剤情報を確認するための※1「災害時医療情報閲覧」がすでに運用されている。今後は救急時も同様に※2「救急医療情報閲覧」の運用が検討されている。そのため、検討している電子化のシステムと運用や内容が重複する 	<p>厚生労働省による※2「救急時医療情報閲覧」が可能になるまでの間、救急搬送時に医療機関が必要とする多くの情報を共有することができない</p>

※1「災害時医療情報閲覧」、※2「救急時医療情報閲覧」
厚生労働省による災害時、救急時に使用することができるシステムで、マイナンバーカードや本人情報（氏名、生年月日、性別、保険者名称または患者住所の一部）から手術・診療・薬剤情報を閲覧できるシステム。